

展勝地風土記

Vol.37

令和3年11月26日

展勝地開園100周年記念事業実行委員会

問い合わせ／北上市都市整備部都市計画課 ☎72-8279

展勝地開園100周年記念事業実行委員会、100周年に向けた取り組みとして、より多くの市民に展勝地を知っていただくため、展勝地に関するさまざまな情報を紹介しています。歴史的なこと、地理的なこと、自然環境のこと、そして、展勝地に深く関わった人々や展勝地を題材にした美術・文芸作品などについて紹介しています。

最終回 『展勝地開園100周年』 記念事業を振り返って

展勝地風土記編集委員会

沢藤幸治氏が提唱し、三好学氏と井下清氏により設計・計画され、地元立花の多くの人々の協力があつて開園が実現した桜の名所、展勝地。市民をはじめ全国の多くの人々に愛されています。



植栽当時の桜並木(大正)

「展勝地開園90周年記念式典」は平成24年1月28日、さくらホールで行われ、その後100周年をどのような形で迎えるのかを考える「開園100周年記念事業準備委員会」が発足。同委員会では「展勝地とは何?」「先人たちは何をしようとしたのか?」など、展勝地を見つめ直す機会として、100周年までの10年間をさまざまな事業を通して考えてみようということになりました。

その一つ「ゆかりの地訪問事業」では、「桜・歴史・北上川」をテーマに、先人が見いだした価値を共有し再発見するため、関連する土地を訪問しました。

「桜」をテーマとした訪問先では、かつて平泉文化が栄えた頃に吉野の桜にも匹敵すると西行に詠ま

れた桜の名勝地復活を目指す「西行桜の森」(平泉町)と、東日本大震災の津波被害に見舞われ、後世に同様の被害が及ばないようにと津波到達点に桜の植栽活動を行っている「桜ライン311」(陸前高田市)を巡りました。新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり心残りだったのは、展勝地を設計した井下清氏が手掛けた「日和山公園」(宮城県石巻市)の訪問。北上川舟運の終着港として栄えたところでもあり、桜と北上川両方に関連する場所でした。

「歴史」をテーマとしたところで、国見山廃寺、白山廃寺、更木大竹廃寺のほか稲瀬地区から立花地区までの「あずま海道」の踏破、周辺の蝦夷文化として角塚古墳(奥州市)を訪問。また、国見山仏教

文化に深く関わる北上川東岸の仏像が所蔵されている成島毘沙門堂、凌雲寺、丹内山神社(いずれも花巻市東和町)、立花毘沙門堂、如意輪寺(市内)、藤里毘沙門堂(奥州市江刺)などを巡りました。さらには、駒ヶ岳を起点に展勝地を通じて釜石市唐丹まで伸びる南部伊達領境に関連する新谷番所跡(遠野市)を見学しました。

「北上川」に関連するところでは、北上川舟運の起点で明治橋近くの「盛岡市下町資料館」、北上川鉍毒汚染対策の施設「旧松尾鉍山新中和処理施設」(八幡平市)を見学。北上川最大の支流・和賀川の上流域で沢内地区の歴史や文化を学び、一関市にある北上川学習交流館を巡りました。さらには、一関市川崎から国土交通省の北上川調査船

「ゆはず」に乗船。北上川舟運が盛んだった江戸時代に船頭の船頭で、付近で破船し地元民に手厚く葬られた「清五郎の墓」がある花泉町日形を訪れ、持参した花や線香を手向けました。調査船の名前の由来となっている北上川源流の「弓弦の泉」(岩手町)は日程が厳しく断念したことは残念でした。

このように、展勝地に関わるゆかりの地を訪れ、目で見て肌で感じる事ができたことは有意義だったと思います。

また、100周年を迎えるまでの10年間で展勝地を見つめ直す試みとして、さまざまな分野から展勝地を掘り下げて紹介する「展勝



陣ヶ丘からの眺め(昭和)

地風土記発行事業」は、市の広報紙へ年4回折り込むというまれに見る取り組みでした。展勝地開園100周年という市にとって歴史的に重要な一大イベントとはいいながらも、調整や決定までの段取りに尽力された関係各所の皆さんに敬意を表します。

歴史や自然、文化と多岐にわたる関係者の皆さんに執筆いただきましたが、もちろん、展勝地に関する全てのことを網羅したとは言えません。

参考までにこれまで発行した記事のタイトルをご紹介します。バックナンバーは市のホームページでご覧になれます。



- 第1号「私と展勝地」
- 第2・3号「展勝地のお宝 国見山廃寺跡」
- 第4号「黒岩の謎の巨石群」
- 第5号「展勝の継承」
- 第6号「もう一つの展勝地」
- 第7号「信仰の道 あずま海道」
- 第8号「奥州立花の櫻」
- 第9号「北上川の流れとともに」
- 第10号「天地の華」
- 第11号「この地に惹かれて」

- 第12号「みちのく民俗村を考える」
- 第13号「北上川の流れとともに②」
- 第14号「展勝地の鳥たち(野鳥)」
- 第15号「山は時の堆積」
- 第16号「展勝地の春」
- 第17号「簪にいざなわれて抱かれるところ」
- 第18号「山河花満ちる」
- 第19号「歴史の扉を開いた風景陣ヶ丘」

- 第20号「自然、芸術、そして旧暦」
- 第21号「自然の中に生きた沢幸さん」
- 第22号「展勝地と父と私達と」
- 第23号「展勝地異聞」
- 第24号「展勝地開園80周年の出来事」

- 第25号「北上展勝地と名勝小金井桜」
- 第26号「民俗村で昔語りを」
- 第27号「珊瑚橋ものがたり」
- 第28号「如意輪寺さんとお宝」
- 第29号「国見山文化を見なおす会」
- 第30号「立花毘沙門堂とお宝」
- 第31号「1500人が参加した『北上市民大植樹祭』」
- 第32号「国見山「地質ガイド」
- 第33号「北上河畔で展勝地とともに」
- 第34号「みちのく民俗村」

- 第35号「みちのく民俗村周辺の生き物調査」
- 第36号「藩境の歴史とともに」

展勝地の自然環境や施設、文化活動などは私たちが過ごしてきた上で自然に見聞きし、体感してきたものです。歴史を含め、私たちの体の一部として刻み込まれてきたものであると考えます。

郷土の歴史文化を知ることとは、今回の展勝地に関することに限らず、己を知るということにもつながります。ぜひ今後も郷土北上に興味をもって、これからの人生にも深みを増していきますように願うものです。



展勝地の桜並木(昭和)